

健康一口メモ

仙台市医師会
広報委員
安田 朗雄

带状疱疹の患者さんが最近多いようですので、私が痛みの専門家として基本的な対応についてお伝えしたいと思います。

带状疱疹は子どもの頃に罹患した水疱瘡のウイルスが体に残って、ある程度時間がたつてから、何らかのきっかけで再発症する病気です。全身に発疹は出ず、1、2本の神経に発症します。そのため、胸の片側や、顔でも額の片側、足の一部などに発疹が出て、その部分が激しく痛むという症状が一般的です。発疹が出たところと痛みの部分が異なる場合、発疹が出るのは通常、体の片側ですが体一回りに発疹が出た報告もあります。

痛みは当初は激しく眠れないほどですが、お風呂で湯船に浸かっている間は軽くなるという症状が多く見られます。初期には神経分布に沿った痛みのため、坐骨神経痛や頸椎症の痛み、肋間神経痛などと診断される場合が多く、発疹が出てから確定診断されることがよく見られます。

治療は抗ウイルス薬を内服することと、消炎鎮痛剤で痛みを緩和することが重要です。気が付いたらできるだけ早く抗ウイルス薬を飲むことを

带状疱疹について



お勧めします。というのも、細菌感染の抗生剤のように菌を殺すと思っている方が多くいらっしゃいますが、ウイルスの薬は増殖を止めるのが主な作用ですので、いかに早く内服するか早期の治療に役立ちます。残念ながら痛み止めは効きにくい場合があり、当院では1〜2週間ごとに効果があるものを見つけるまで変更します。それでも痛みがひどい場合は、ペインクリニックで神経ブロック療法を受けると改善する可能性が高まります。

まずは早期発見が大切です。上記の眠れないほどの痛みなどにお風呂で楽になれば、多くは带状疱疹です。で、早期の医療機関受診をお勧めします。

予防にはワクチンも有効です。「不活化ワクチン」には認知症の予防効果もあり、論文も出ていますが、より効果が高いとされる「遺伝子組み換えのワクチン」には認知症予防効果の論文はありません。ちなみに、前者の論文で発表された認知症の予防効果はお茶ほどの予防効果もありません。

〔安田クリニック／泉区寺岡〕



杜の都信用金庫は
「地域社会発展のために設立された地元の信用金庫」
であるという原点のもと、
“もっともっと、「しんきん感」向上宣言!”
のスローガンを掲げ、
地域やお客さまとの信頼関係を
より強固なものとして、
これまで以上に身近な“もりしん”を
目指してまいります。

Shinking with you.



もっともっと、「しんきん感」向上宣言!

杜の都信用金庫

